

相談・支援にたどり着ける社会へ



「つながる」はずの
SNSが
「相談」を遠ざける？



年代・性別で違う
「相談への抵抗感」



調査結果から読み解く情報偏食と若年層の相談行動

SNS上にさまざまな情報が氾濫する中、困りごとを抱えた人、特に若年層において、必要な相談・支援につながりにくいことが大きな課題となっています。本シンポジウムでは、インターネットの利用と相談へのつながりにくさに関する最新の調査結果を報告します。また、デジタル空間を前提としたこれからの支援のあり方をめぐって、研究者・実践者による議論と提言を行います。



[基調講演]

デジタル空間とどう向き合うか
～情報的健康の実現をめざして～

鳥海 不二夫 氏 東京大学大学院工学系研究科教授



[トークセッション]

若年女性における困難と支援のあり方

戒能 民江 氏 お茶の水女子大学名誉教授

山本 千晶 氏 フェリス女学院大学グローバル教養学部准教授



提言 ～ 若者と相談の現場をつなぐために

奥村 春香 氏 NPO 法人第3の家族 理事長

宮本 太郎 氏 中央大学法学部教授

聞き手 遠藤 智子 一般社団法人社会的包摂サポートセンター事務局長

日時

2025年

9月6日(土)

14:00-17:00

会場

神田スクエア

会場定員 200 名 + オンライン同時配信あり

【無料・要事前申込】



「情報偏食」と若年層の相談支援へのつながりにくさに関する調査

インターネットやSNSによる情報が飛び交う中、若者が日々どのような情報に触れているのか。また、困りごとを抱えた際に誰に相談しているのか、あるいは、相談しない理由は何か。

2025年3月～5月にかけて、4,000件を超えるアンケート調査と23名への詳細な個別インタビュー調査を行い、相談支援と若者をつなぐ鍵を模索しました。



主な調査項目の例

- ・相談機関の認知度や相談経験の有無
- ・回答者のインターネット・SNS等の利用状況
- ・回答者の価値観や、周囲の人・社会への信頼度 等

相談支援と若者をつなぐために… 知っておきたい必須キーワード

シンポジウムでは、調査結果の発表とともに、今後の相談支援のあり方について議論していきます



アテンションエコノミー

人々の「アテンション＝関心」が「通貨」のように取引される経済・社会のこと。利用者の関心を集めて利用者に合わせた広告を閲覧させる仕組みを中心に、現代の情報社会における基盤となる経済原理となっています。

フィルターバブル

インターネット上のプラットフォーム事業者が推薦してくる情報に囲まれ、それ以外の情報と触れる機会が制限されること。私たちは、ネット上で情報を得る場合、気づかない間に推薦システムの影響を強く受けています。

エコーチェンバー

エコーは「こだま」、チェンバーは「部屋」という意味で、閉鎖空間でコミュニケーションがこだまのように繰り返され、特定の信念が増幅されてしまう現象のこと。

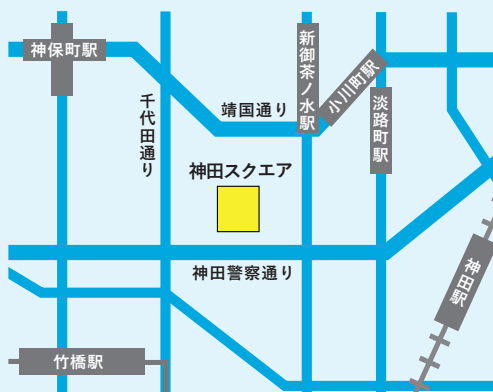
会場案内

神田スクエア ROOM

東京都千代田区神田錦町2丁目2-1

地下鉄各線 小川町・淡路町・新御茶ノ水・
神保町・竹橋から徒歩3～6分

JR各線 神保町・竹橋から徒歩3～6分
御茶ノ水・神田から徒歩9～10分



主催：一般社団法人 社会的包摂サポートセンター

社会的包摂サポートセンターは、寄り添い型相談支援事業及び被災者見守り・相談支援事業 **よりそいホットライン** の運営を通じて困りごとを抱えた人の年間15万件を超える相談に対応しています。

詳細・参加申込

<https://www.since2011.net/information/4590/>

